初代松江市長・福岡世徳文書(二)

竹永三男
島根大学法文学部
近現代史ゼミナール

〔解題〕

今回は、福岡世徳文書の中、市長在任時代の「公務手帳」の第二冊を翻刻する〔第一冊及び第三冊以下は、次号以降に譲る〕。

この「公務手帳」は、全部で一〇冊残されている。そのおよその記載時期は、次のとおりである。

第一冊　一八九一年（明治二四）年
第二冊　一八九二年（明治二五）年～一八九三（明治二六）年
第三冊　一八九三年（明治二六）年～一九〇六（明治三九）年
第四冊　一八九六年（明治二九）年～一八九七（明治三〇）年
第五冊　一九〇一年（明治三四）年
第六冊　一九〇五年（明治三八）年～一九〇六（明治三九）年
第七冊　一九〇六年（明治三九）年～一九〇七（明治四〇）年
第八冊　一九〇七年（明治四〇）年～一九〇八（明治四一）年
第九冊　一九一二年（大正　元）年～一九一三（大正　二）年
第十冊　一九一三年（大正　二）年～一九一四（大正　三）年

途中欠落があるが、いずれも福岡市長が常時携帯し、その都度メモしていたものであって、記載内容の信憑性は高い。また、本誌前号「初代松江市長・福岡世徳文書（一）」所収の「備忘録」「在京日記」と併せて、市長としての活動実態や関心の在り所を知りうる史料である。

今回翻刻した第二冊では、一八九二年一〇月に岡山市で開催された「関西各市協議会」とそれに引き続いて行った九州各都市視察旅行の内容を知ることができる（「初代松江市長・福岡世徳文書（一）」七頁、参照）。そこから、学校教育行政（財政）、都市公共施設（公衆便所の経営や街路など）、産業施設などに対する松江市長としての深い関心を見てとることができよう。

なお、今回も、近現代史ゼミナールの学生諸君が翻刻にあたり、竹永が全体を校閲した。担当者は次のとおりである。

大坂理恵（II）名原恭子（II）西山一徳（II）松本恵理子（II）
勝部智明（I）杉本貴弘（I）古尾谷由規子（I）前田和彦（I）

〔（　）内は学年〕

〔凡例〕

翻刻に際しては、原文どおりとすることを原則としたが、次の諸点については、記述上の変更・修正を行った。

①文中の改行はとくに行わず、本誌の一行字数に従った。

②一部の漢字は常用漢字に改めた。

③末梢が単なる誤記の場合は訂正された文字のみを記した。また末梢された部分が判読できる箇所は、そのまま翻刻し、末梢範囲を注記した。判読不明文字は字数に従い、□□で示した。

④原注は（　）、校閲者注は［　］で記した。

〔翻刻〕

［福岡世徳「公務手帳」第二冊　一八九二～三年
タテ　六・〇cm　ヨコ九・三cm　本文一二二ページ］

本縣

戸数　拾四万八千七百五十八
　出雲七万七千四百五十九
　内石見六万四千二百五十九
　　隠岐七千四十
人口　本籍七十万三千十四人
　出雲三十六万二千四百四十人
　内石見三十万六千六百四十五人
　　隠岐三万三千九百二十九人
現住六十九万六千二百四十七人
地祖七十三万三百十円拾八銭　所得税　八千三百三十七円六十七銭　地方税　廿四年度　□拾六万三千九拾円三拾弐銭
特有物産
　鉄（出雲石見）　木綿出雲　半紙石見　銑石見　鯣隠岐
松江市　撰挙人　二千五百壱人　内　一級　九十五人　二級　三百四十八人　三級　二千五十八人　面積　四百拾九町壱反七畝余歩
　人口　三万五千四百九十四　戸数　七千七百貳拾四　現住　壱万百八十六　在籍
民有田反別　五拾壱町六反壱畝余歩　畑反別　六拾壱町七反壱畝余歩　宅地反別　百八拾壱町弐反壱畝余歩　池沼　貳反余歩

○市有財産
山林　三反拾貳歩　耕宅地　壱反六畝余歩　火葬場　三畝貳拾六歩　汚物焼捨場　壱反三畝余歩
建物　貳拾八坪余　金千八百壹圓余　高等学校敷地　貳反四畝九歩　校舎　百九十九坪余

○基本財産
金五百五拾七圓八拾九銭壱厘

○各大字財産　金三千貳百八十七圓余　公債証書　貳千貳百余　計五千四百八拾七圓余

○直接國税　廿五年度
地祖三千七百廿一円六十三銭厘（ママ）　所得税　千四百三十九円拾五銭

八厘　内　七百十一円四十八銭八厘　四等廿六人　七百廿七円六十七銭　五等百六十人

○間接國税　廿二年度

酒造　金八千五百九拾四円四拾弐銭八厘　醤油　金弐千三百五拾四圓六拾九銭五厘　車　金三百五円弐拾五銭　賣薬　金弐百五拾三圓八拾銭　烟草　金四百六十七圓四拾銭　度量衡　金拾六圓六十一銭九厘　銃猟（ママ）　金六拾圓

牛馬賣買　金壱円　諸印紙　訴訟印紙ヲ除ク　金千九百六拾五円七銭四厘　菓子　金千九拾三円三拾九銭八厘　舩　金三百五拾九円廿三銭五厘　計　壱万五千四百七十圓八十九銭九厘

○地方税

地祖割　七百五拾壱圓四拾銭

戸數割　千七百八拾六圓四拾壱銭壱厘　営業税　八千九百〇九圓三拾六銭弐厘　雑種税　三千七百五拾五圓八拾六銭四厘　計壱萬五千貳百〇三圓〇三銭七厘

○會社

出雲国産會社　資本壱万圓　十馬力

松江物産會社　資本壱万圓

水産商社　資本七千圓

酒類仲次商社　資本壱千圓

松江精米會社　資本壱万圓　十四馬力

松江銀行　資本十万圓

松江蚕業會社　資本壱万八百圓余

精米會社臼数四十一個　一日搗高四十石　販路　松江市　隠岐

○特有物産　品名　価額

生糸　三万八千五百十六円　人参　二万六千円　木綿縞類　二万六千八百六十四円　生蠟　壱万貳千円

△其他物産

○輸出入　廿四年

輸出合計　百五拾貳万九千八百貳圓

輸入合計　貳百六万三千九百九十八圓

○鋳鉄　八百五十圓　高田陶器　七十八圓　松崎盆　七十圓

繭春蚕産額百五十石

○市住民職業区別

農　百九十人　工　千六百八十六　商　二千九百五十二

漁　五百四十四

○出入船舶

汽船　十艘　但定期　日本形　二百艘　出入平均　但不定期入二百四十二　出百五十一

○人力車数　百九十七輌

○旅客ノ数

○被救助人　国庫金

貧者　四十九名　棄児　二名

養蚕ニ関スル統計

桑田　廿二町七反　廿四年調

生糸産額六百廿四貫三百三十九匁五分

廿四年調廿五年ハ調中
生糸家ノ数百〇七戸　内會社一
繭産額二百十二石三合　廿五年生産高
養蚕家多分繭ニテ売却ス
生糸内訳
器械糸四百九貫廿匁　一万二千六百十五圓余
座操糸二百十五貫二百匁余　六千三百十一円余
〇廿五年度恒常歳出惣額　壱万三千七十五圓九十二銭六厘
内役所費　五千四百四十一圓八十四銭一厘
會議費　三百四十五圓七十二銭五厘
土木費　四百二十二圓九十二銭四厘
教育費　五千七百四十五圓九十四銭四厘
内　尋常　四千六百十二圓九十七銭
高等　千百三十二圓九十四銭七厘　七ケ月分
十二ケ月トスレハ　千九百四十二圓廿四銭余
衛生費　二百八十六圓五十一銭二厘
救助費　二十五圓
警備費　四百四十六圓六十二銭
租税及負担　四十七圓五十三銭七厘　雑支出　五十三圓九十銭
予備費　二百圓
〇廿五年度歳入ノ内
市税　九千九百六十六圓五十四銭八厘
内　地價割　五百三十一圓七十一銭五厘
営業割　千七百三十八圓九十銭六厘
戸別割　六千五百三十一圓七十一銭六厘
所得附加　三百九十三圓五十九銭三厘
特別所得税　七百七十圓六十一銭八厘
授業料
尋常校　千二百四十二圓七十八銭
高等　千〇三十圓八十九銭　七ケ月分
〇督促令状発付及公費
廿五年度第壱期地方税営業税雑種税
令書惣数五千五百八十
内　督促令状発付　貳千貳百五十貳
内四百四十四納付　千八百〇八處分済
仝年度市戸別割
令書惣数六千八十二
内　督促令状発付　千九百六十六
内　四百八十五納付　千四百八十一處分ノ見込
〇学齢児
学齢児　五千貳百貳拾三人
内　男二千五百四十二人　女二千六百八十一人
就学者　三千七百九十一人
内　男二千二百六十三人　女千五百二十八人
〇卒業生歩合
尋常校　生徒百人ニ付卒業者概略八十人
高等学校　仝上百人ニ付卒業者概略三十人

○師範学校
廿五年度経費　壱万貳千四百九十五円八十四銭四厘
教員ノ数　拾五人　生徒ノ数　百三十四人
○中学校　廿五年経費　七千百五拾九圓四十七銭九厘　教員ノ数
拾三人　生徒ノ数　弐百六十四人　校長月俸　八十圓
○私立学校
修道館　普通学六年　生徒男百五十九人女二十九人
相長学舎　皇漢学　生徒男四十一人女二人
共進学舎　皇漢数学四年　生徒男三十二人
博審学校　漢学数学六年　生徒男七十人
松江法律学校　法学二年　生徒男七十二人
培塾　漢学六年　生徒男九人
不得已学舎　漢学　生徒男三十七人
文友舎　普通学四年　生徒男四十二人女四人
○小学校教員ノ数
高等正教員　十五圓一人　十三圓一人　十二圓一人　十一圓三人
十圓二人　八圓二人
准教員　八圓一人　六圓一人　三圓五十銭一人　計十三人
○尋常教員
正教員　十二圓一人　十一圓四人　十圓四人　九圓一人　八圓三人
七圓二人　六圓五十銭一人　六圓二人　五圓五十銭一人　五圓十
四人　四圓一人
准教員　四圓二人　三圓三人　計三十九人

廿六年度累計　壱万四千九百圓余　内　二千三百圓　高木小学
四百九十圓余負債償却

報告財料〔ママ〕
市役所干渉ノ度　衛生事務ノ模様　勧業事務ノ模様　□翰取扱等之事　市ニ於テ設置ノ事業　市街道路　監督廳取扱區々ニ渉ル事　□□□之事
一市ノ主ナル物産其産額價額
一所得税納額及人員
一市制施行前後諸般ノ異動
一諸税滞納處分ヲ受クル者ノ数
一貧民ノ實況
一基本財産ノ数及将来増殖ノ道
一学齢児就学歩
一訓導ノ給料額
一鉄道ノ通セシ前後ノ異動
一参事會執務之實況
一戸別割賦課之方法
一委員設置ノ有無
一衛生組合之事
一市ニ於テ起ス可キ事業

東京四ツ谷元鮫橋五拾八番地　松平伯爵
上京區油小路通り二条上ル薬屋町廿八番戸　和田彦蔵

京都麩屋町姉小路上ル西側　柊屋　西村庄五郎
金五拾弐圓七十八銭五厘
内五圓　十月廿一日三谷へ渡ス
六圓四拾銭　三十日岡山ニ於テ三谷へ渡ス
廿銭　十一月一日　門司端舟　壱円　十一月一日太宰府ニテ
弐円　同二日市宿ニテ　弐円七拾五銭　ケット壱枚
十円五十銭　十一月三日研屋ニテ　五圓　五日博多石田ニテ
弐圓　六日箱崎ステーションニテ　三圓　同日門司石田店ニテ
七十四銭七厘　ゑりかけ　五圓　七日廣島ニテ
五圓　八日三次ニテ　弐圓　九日宍道ニテ

十月廿一日半晴〔関西各市協議会出席のため、岡山に向け出発〕
午前九時発船三島小川高橋藤井渋谷園山ノ諸氏船場或ハ船中マテ見送ラル船中吉田次助在リ曰ク大坂ニ登ルト岡山迄同行スルヲ約スナ一時米子ニ着船ス上陸スレハ車夫前ニ席集乗車ヲ促ス壱円廿銭ヲ以テ落合ニ至ルヲ約ス米子町ヲ距ル数丁雨少シク降ル須臾ニシテ歇ム黄稲田ニ満ツ回望スレハ四山緑中黄紅ヲ交ユ秋将サニ老ヘントスル(ママ)ノ色ナリ午后一時三十分溝口駅ニ着ス住田宗一方ニニテ午餐ヲ喫ス二時廿分溝口ヲ発ス雲霧漸ク収マリ日光漏射ス四時五十分根雨駅ニ着油屋平重方ニ投ス晩□ヲ喫シタリ談話数刻下婢宿帳ヲ呈シ住所姓名年齢ヲ記セン冂ヲ求ム三谷氏筆ヲ執リ先ツ余ノ住所姓名ヲ記シ余ノ年齢ヲ問ハル四十五年ト答フ以下略ス
廿二日晴
午前七時五十分根雨ヲ発シ八時廿分板原ニ着仝所ゟ歩行シ伯作ノ境ゟ下ル冂数丁復乗車ス十一時廿分美甘ニ着当屋ニ於テ午餐ヲ喫シ正午仝所ヲ発シ午后四時廿分落合ニ着備前屋ニ投宿ス
同二十三日晴
午前五時乗船朝日川ヲ下ル午後一時「カセ」ヨリ上陸直チニ乗車二時金川ニ着午飯ヲ喫シ三時発六時岡山自由亭ニ投ス夜ニ入リ岡山市(ママ)書記太田某小川某来訪明廿四日午前九公園内県会仮議事堂ニ参集スヘキ冂ヲ報ス天守閣ノ事ヲ問フ天守閣ハ池田家ノ所有ニ帰セシ以来市ニ関係無シ全ク閉鎖シテ近時修理ヲ加ヘス追々破壊ニ至ルノ傾キアリト
廿四日
午前九時議場ニ至ル十時過キ議場ニ列ス会長岡山市長ヨリ不参ノ市脱会ノ市アル冂ヲ報告ス赤間関市来集スヘクシテ未タ来集セサルヲ以テ電報ヲ以テ問合セ参会ノ有無ニ拘ハラス明廿五日午前八時ゟ開会スル冂トナシ散会尤も高等学校ヲ巡見セントノ冂ニテ弁当後岡山市長ノ案内ニテ高等学校ニ至ル
校舎ハ元西ノ丸ヲ用ユ
教室十七外ニ裁縫作法并修身口授ノ為メ畳敷ノ二教合セテ十九教室ナリ
生徒数　七百五十六人　内　村ゟ入校ノ生徒三十八名
教員ハ　校長ノ外　訓導十八名　内体操教師壱名
外　裁縫ト作法トヲ兼ネ専門ノ女教師二名アリ
一組ニハ多数ノモノ六十人　少数ノモノ十四人
校長ハ日々二時間修身ヲ受持ツノ外授業セス

各教員ハ修身ト体操ノ外一組ヲ受持チ一切ノ課業ヲ教授ス
校長ハ岡村正義
英語ヲ随意科目トス目下英語ヲ修ムル者百八十名　英語ハ正課時間外ニ教授ス
教室内生徒ノ卓子椅子両側ノ分ヲ斜メニ置キシモノアリ新現ナル卓子椅子アリ〔図略〕
授業料ハ市外ノ者ヨリハ倍数ヲ徴収ス
二時宿舎ニ帰ル　午后五時岡山助役小田安正収入役中西某来訪暫時談話シテ去ル五時半堺米穀市場理事長沼野寿慶次来リ暫時談話シテ去ル　七時山本氏到着ス
同廿五日晴
午前八時議場出席九時開会午后三時廿五分閉会四時前ゟ公園内散歩
引続キ懇親会ヲ開キ八時過キ帰宿
同廿六日晴
午前八時半出席九時開会午后五時前閉会休憩之間松山高知ノ二市辻便所ノ事ヲ問フ　松山ハ私設ニ付市役所ヘ買上ケヲ為サント計画シツゝアリト　高知ハ戸長役場ノ時ヨリ公設ニ付今尚市役所ノ収入トナル管理方市内ヲ四ツニ分チ四人ノ担当人ヲ置キ月三圓宛ヲ給シテ(ママ)掃除ノ事ヲ掌ラシメ小便入札ヲ以テ佛下クト又松山高等尋両校長ノ給料ヲ問フ　高等二十円　尋常十六円
黄昏岡山市書記三人来訪ス夜食後市街ヲ散歩ス
同廿七日晴　午前八時出場
岡山　高等学校長　月給三十圓　尋常十八圓
又便所管理方ハ　壱人ノ担当人ヲ置キ月手当三圓給与此者日々各便所巡視ス而シテ小便ハ毎年入札ヲ以テ佛下クト云フ
九時開会本日ハ学事ニ関スル事項ヲ協議ス午后四時閉会引懸ケ(ママ)岡山孤児院ヲ巡視ス　寺院本堂ヲ学校ニ充ツ外ニ炊場工場食室病室等アリ職業ハ燐寸製造法割薪斬髪等ナリ孤児ノ数現今百九十五名
其内六十余名ハ女児ナリト云フ其経費ヲ問現今ハ月四百円ニシテ一名ニ付二円ノ割合ナリト云フ　尚名古屋ニ六十名餘播州ニ十六名アリトノ事ナリ
午后六時帰宿ス八時過松山市助役村松賢弐来ル暫時談話シテ去ル
同廿八日朝曇午后ゟ降雨
午前八時出場九時開会正午写真ス午后一時開会五時閉会直チニ帰宿
同廿九日曇
午前八時出席　高知縣ニ問フ　市書記十六名　雇十名　計廿六名
書記高給額十四圓
小使ハ十二人　給仕二人　尤全五等者テ小使ヲシテ之ヲ為サシム
赤間関市ニ於テハ下水工事ニ付バルトン氏ニ設計セシメシニ本管(土管)丈ケニテ三万圓ノ見込ミトノ事又上水ノ設計ハ十三万圓ナリト云
九時過開会午后六時三十分議題惣テ議了明年ノ宿ヲ抽籤ニテ定ム松山市當番トナル七時帰宿
堺　高知市役所新築　何レモ臨時費　堺ノ建物ハ廿間ニ八間　落札三千弐百円
九時頃堺市書記石田萬次郎来リ数刻談話シテ去ル
同三十日晴
午前九時紺屋町魚嘉方ニ集リ市長ノ案内ニテ左ノケ所巡覧ス

錦莞筵　織臺一百
一人一日織高下等品一丈二尺　代價下等六十銭ヶ上等八圓迄但壱臺ニ付
耐火煉火(ママ)製造　蠟石ヲ以テ製ス　竈ニアリ一竈ニテ一万余ケヲ焼ク
一ケノ價三銭五厘ナリト云フ
監獄署　工品ハ　貝細工釦　小倉織　錦筵等　簾等ナリ
紡績会社　資本金三十五万圓　紡数一万　三千増見込ト云フ
上ノ町山崎啓次郎方ニテ昼飯ヲ喫ス
ハンガチーフ(ママ)製造所　工女五十人　上等工女一日工賃廿銭　ハンガチーフニテノ収益一ケ年百万圓ナリト云フ
縣廳記スヘキナシ
製糸場資本二万圓目(ママ)工場増築中　工女六十四人　本年買入繭千百石
買入地　地方ニテ五百　伊豫讃岐筑前等ニテ六百石　平均壱升廿九銭
午后四時過帰宿五時岡山市書記来暫シテ去ル市長新庄来ル暫時談話シテ去ル　夜食後市街散歩
同三十一日晴
午前七時岡山発市役所ニ立寄リ午前八時二分発ノ汽車ニテ午前十一時十分尾道ニ着車浜吉支店ニ至ル仝所ヶ熊本市書記當田長蔵氏ト同行トナル午後一時三十分宇治川丸二乗船ス
熊本市
高等小学校生徒千百人　校長給四十圓　尋常校長十二圓　戸数割ハ廿八等ニ別チ　壱等ハ二十圓八銭ヲ負担ス
市債ヲ起シテステーションヨリ市役所ニ至ルノ道路ヲ開鑿ス市債ノ高ハ一万二千圓ニソ三年間の継□ヲ以テ償還ス
十一月一日午前五時門司ニ着舩直チニステーションニ至ル乗車六時発車同九時二日市ニ着同所ニテ下車人力車ヲ雇ヒ太宰府天満宮ニ詣ス
神殿凡ソ八間四面アリ境老樟桜多シ　宝物　菅公御筆二枚　離家三四月　落涙百千行　萬事皆如夢　時ミ仰彼蒼　同経文八巻　紺紙金泥楷書　青銅三聖像　吉備大臣入唐ノ際弘文館ニ安置セルモノヲ持帰リシモノナリト云刀　天國　焼ケ身　宗近在銘　正宗　包平在銘
行平無銘　延寿國房　在銘　貞次無銘　信國在銘
門楼額二面　菅聖庙　斯徳惟馨
大野某方店題ニ憩ヒ都府楼ノ瓦ヲ観ル
帰路都府楼ノ古址ヲ見瓦片一コヲ拾得シテ二日市ニ帰ル午后一時ナリ鹿児島徳兵衛方ニテ昼飯ヲ喫ス
午後二時五分同所発午後六時熊本洗馬下一町目研屋ニ投ス岡本武平
夜食後市街散歩ケット壱枚ヲ求ム
同二日晴
午前六時過朝飯前人力車ヲ雇清正公ノ廟ニ詣ス熊本市ヶ北壱里ニ在リ八時帰宿
午前九時市役所ニ至ル縣廳ノ正面ニ在リ元區役所の新築ニ係ル枚村市長参事会員　ニ面会左ノ廉々ヲ問　市会議事ハ学校ニ於テ開ク(ママ)
○開鑿道路ノ冂　本年度ヨリ三ケ年ノ継続事業トシテ池田停車場ヨリ市内へ通スル道路ナリ工費一万二千円
○市街便所
元或ル一人ノ所有ナリシヲ區役所ノ時九百円ニテ買上ケ區ノ所有ト

ナル現今市ノ所有其買上費ハ両便買取人ヨリ操出シ年々市費ヲ以テ償却ス故ニ収利少ナク弐百円ニ過キス便所ノ掃除ハ落札人ノ負担ナリ便所ノ数ハ百二十ケ所ナリ

○市街並木　十年ノ役市街兵災ニ罹リシ際道路ノ幅ヲ廣クシ並木ヲ植タリ該並木ハ各家ノ私有ナリト云フ　柳　松　梧桐　胡桃　椋サイカツ　槐　栴檀　丈槙等アリ

○公告式　三新聞紙ナリ

○鉄道ノ通シ前後　商業上ニハ稍影響セシモ其他格別変シ事ナシ

右了リ学校巡覧

硯臺尋常小学　校長上野某十三圓給　生徒五百餘名　教員校長ヲ除キ十名

高等小学校　校長　給四十圓　生徒千百八十余名　教室ノ数十八

教員ノ数二十　教員ノ受持ハ科業持ニ非ス一組ヲ受持ツ　生徒ハ男女ヲ分ツ　教員モ亦仝シク女生徒ハ女教員ニテ受持ツ　英語ヲ正教課ニ加フ

力食社ニ至ル　十年役後ノ士族授産ノ為五万圓拝借（ママ）　飛白小倉地二子織等ヲ識ル拝借金ハ既ニ上納済ト云

電話会社ニ至ル

右巡覧ハ多田市書記案内ス

午后一時過帰宿喫飯午后二時ゟ水前寺ニ至ル庭園ハ出水神社ノ境内ニ係ル該神社ハ細川幽斎三斎両公ヲ奉祠ス縣社ナリ之ヲ水前寺ト称スルハ以前水前寺ト云フ寺アリシニ依ル而シテ水前寺ト云ヒヌ出水神社ト称スルハ泉水涌出スルニ因ルト云フ

是レヨリ市街巡覧午後五時帰宿ス黄昏多田書記来訪酒ヲ出シ暫時談話ス　水前寺ノ築山ヨリ四方ヲ望ム東方ニ阿蘇山ノ烟ヲ噴出スルアリ南方ニ五箇山アリ西方ニ金峯山アリ金峯山ハ十九年ノ大震ニ最劇烈数十間裂ケタリト云フ

同三日晴（九州日々新聞　九州日報　熊本新聞　三種）

午前六時半錦山神社ヘ参詣ス宝物拝観　御自作烏帽子烏帽子二　陣太鼓一

同九時帰宿朝飯ヲ喫シ九時半停留場ニ至ル

松江ノ人青木乕次郎停車場ニ来リ訪フ常松清次郎ニ傳言ス尚吉田重造此地発足以来局員ヘ書状モ到ラス一同不平ヲ鳴ラシ居ルヲ以テ其旨申遣ハスヘキ旨申聞ク

十時廿六分発車十二時十分大牟田ニ着車同所ニテ下車三池炭坑ノ内宮浦坑ヲ覧ル午后一時四十五分大牟田旅店ニ於テ昼飯ヲ喫ス

四時十一分発車五時廿五分久留米ニ着ス當日天長節ナルヲ以市街各戸同一ナル赤色ノ長桃灯ニ白ニテ献燈ノ二字ヲ染抜キタルヲ吊シ日章旗ヲ掲ケタリ三本松町塩屋事上野茂平方ニ投ス　喫飯後市街散歩

同四日晴

午前八時半水天宮ニ参詣守札三十枚ヲ受ケ直チニ市役所ニ出頭　内藤市長ニ面会ス市役所ハ旧藩有馬氏他藩ノ使者等ヲ延ク所ト云フ廣大ナリ　戸数四千余

戸別割ハ廿五等ニ分ツ等級ノ標準ハ建物ノ坪数ト町ニ等級ヲ立テ住居ノ地位トヲ以テス一等七圓廿五等十四五銭ナリ十等十一等ノ間カ一人前ヲ負担ス　営業税ハ　地方税一圓ニ付三十銭　所得附加税本税壱圓ニ付十八銭　右両税共未ダ公賣処分セシ（ママ）ヿ無シ

衛生事務ハ　春秋ノ潔清法ヲ行フニ過キス衛生組合ハ既ニ之ヲ設

ク市役所ヶ準則ヲ示シ之ニ依リテ組織セシム　便所ハ私有
下水工事ハ着手ニ至ラスト雖モハルトン氏ヲメ設計セシメシニ土管ヲ道路ノ中央ニ埋ムル冂トシ大凡ソ三萬圓ヲ要スト云フ
学校ノ冂ハ表アリ　尋常校長高給十五圓　高等学校長ハ三十圓　高等校舎ハ郡市共有ナルヲ以テ此校舎ハ郡ニ引受ケ市ハ新築ノ計画ナリ
市役所書記以下定員二十名其余ハ臨時雇ヲ使フ　定員ハ都テ書記ニシテ給料ハ五圓以上ナリ　區長ヲ置ク廿七名手當戸数一戸ヶ十五銭ノ割ナリ
鉄道ノ通セシ後ノ景況　久留米迄通セシ際ハ旅客ノ宿泊スルモノ多ク稍盛況ヲ呈セシカ熊本迄通スルニ及ンテハ宿泊人大ニ減シ少シク衰ヲ呈スルノ感アリ概シテ鉄道ノ為メ格別ノ影響ナシ
右了テ　両替尋常校ニ至ル　校長ニ面会　生徒四百余名　教員九名
市街四尋常校ヲ通シテ教員雇ノ名義ニテ事務員一名ヲ置キ授業料ノ事ヲ取扱ハシム　各教場ハ稍清潔ナラサルノ感アリ八教室ニ分ツ
其他記スヘキ事ナシ
右了テ　赤松社ニ至ル事務長村上善太二面会ス仝社ハ明治十六年ノ創設ニ係リ有馬家ヨリ士族ニ下付セラレシ二万五千圓ヲ以テ資本ト為シ飛白傘白川表ヲ以テ業トス其後士族授産ノ為メ政府ヶ拝借ノ壱萬七千圓ト有志者ノ出セシ三千圓トヲ合セテ右ノ業ヲ為セシモ利益少ナク士族中資本分配論モアリシカ先頃遂ニ飛白ノ製造ハ或ル商人ニ譲リ資本金ノ内一万圓ノ傘製ノ資本トシ餘ハ貸付ヲ為シ利倍増殖ヲ為スト云フ　久留米市中ニテ年々製造スル飛白　五十萬反ニシテ主トシテ東京大阪ニ出スト云フ　各製造場ヲ巡見シテ辞シ去ル
久留米市街ハ所々並木ヲ植付ケシ所アリ又往々藁葺ノ家アリ道路ノ修繕モ届キシ方又不潔ナル事無シ各家ノ軒端街燈ヲ見ス
十二時過帰宿午飯ヲ喫シ直チニ停車場ニ至リ一時十九分ノ瀛車ニテ発シ鳥栖ニテ下車茶店ニテ待チ二時四十六分発ノ瀛車ニテ佐賀ニ向ヒ三時三十六分佐賀ニ着シ白山町栄徳屋事中野宗平方ニ投ス四時頃ヨリ左ノ所ヲ巡見ス
招魂社并同社ノ傍ナル江藤新平之石碑　石碑ハ士ヲ以テ臺ヲ造リ其上ニ御影石ヲ重子自然青石高サ一丈餘
表ニ　嗚呼諸君子之碑　裏ニ　為明治七年戦死者建之　明治十八年四月　佐賀有志中
旧城内江藤ノ碑　御影石ヲ以テ圓形ニ一間餘積上ケ其上石造ノ亀アリ其上自然青石一丈五尺餘ノ石ヲ建ツ　表ニ
江藤新中君何々君――――――及戦死諸君
協和館　該館ハ集会場ノ為メ之ヲ建設スト云フ七間ニ十一間外ニ玄関アリ二階ハ六室ト為シ下ハ一室ト為ス柱四本室内ニ見ハル純粋ノ(ママ)日本作リナリ玄関ニ協和館ト書セシ大ナル額ヲ掲ク副島伯ノ書ススル所ナリ
松原社　該社ハ正面ニ二社アリ鍋島家祖先以来ノ霊ヲ祭ル左ニ一社アリ閑叟公ヲ祭ルト云フ　該社ノ左ニ公園アリ
黄昏帰宿ス　喫飯市街散歩勧工場ヲ巡覧シ帰ル主人ニ問ヒテ知リシ廉左ノ如シ　鉄道ノ通セシ以来旅客多ク随テ商況モ盛ンナル方アリ魚類等以前ハ唐津伊万里等ヨリ入リシカ鉄道通セシ以来ハ福岡馬関ヨリ新鮮ノ物来ル　市設置以前ハ戸長役場三アリシ人民ノ負担ハ市設置後ハ増シタルノ感アリ薪炭其他用材ハ之ヲ豊後ニ仰ク　牛肉一

斤十八銭位
撰挙干渉ノ後ハ警察ノ命令行ハレサリシカ知事警部長ノ代ハリシ後ハ稍官民居合タリ干渉騒キハ小城郡甚シカリシ
五日雲
午前八時過キ市役所ニ出頭助役廣渡顕展ニ面談左ノ廉々　書記二十名ニ常事務ヲ執行徴税其他臨時多用ノ際ハ臨時雇ヲ使用ス　使丁八名ヲ置ク令書配賦ノ際ハ臨時使丁二名ヲ使用ス　戸数割ハ等級ヲ二十等ニ分ツ一等七圓余廿等十八銭ニシテ平均数ノ負担ハ十等ナリ而シテ其負担八十銭□ナリ　滞納處分法ニ依り處分スルモノハ一期三四十名ニ過キス　地方税交付金ハ處分法ニ依テ徴収スルモ実際ノ徴収額ニ依テ交付ス　市街便所ハ戸長役場ノ時ヨリ公設ナリ管理ノ方法ハ落札人便所ノ掃除ヲ負担ス　公告式ハ掲示場七ケ所ニ掲示ス　退隠料ノ設ケナシ　市内飲料水ハ河水ヲ引テ之ニ充ツ是レ旧藩士ニ水利家アリテ如此設計ヲ為セシト云　学校ハ市内第一第二ノ二區ニ分チ経済ヲ分ツ第一區ニハ勧奥高等尋常併置ノ学校男子部女子部アリ全ク男生女生ヲ分ツ女子部ノ教員中六分ハ男ニシテ四分ハ女ナリ　第一區ニハ学校基金壱万餘圓アリ　第二區ニハ高等一尋常二アリ男女ヲ分タス基金モナシ　就学歩合ハ市内通シテ八歩ナリ　第一區ハ士族多第二區ハ平民多シ
市役所ノ位置ハ県廳ノ向ニアリ元県廳ナリシト云フ構造粗修繕整ハス役所内極メテ質素ナリ市會議事所モ同構内ニ在リ役所事務ハ二階ニテ執リ玄関ニ受付ケアリ
役所ヲ去リ勧奥学校男子部ニ至ル　校舎ハ完全ナラス旧藩ノ時ノ学校ナリト云フ　高等生四百餘名尋常生三百餘名　校内清潔ナラサル方ナリ高等課業受持ハ唱歌英語随意体操ヲ除キ其他一教員一教室ヲ受持ツト云フ　午前十時半帰宿
當市街ノ概況ハ家屋ノ建築一定ナラス往々稿葺アリ稍盛ンナル所ニハ街燈ヲ掲ク間口五六間乃至八九間ノモノ多シ　道路ハ修繕届キタル方随分清潔ナル方カ佐賀郡役所市内ニ在リ新聞紙ハ肥築日報佐賀新聞ノ二種アリ午前十一時半停車場ニ至ル十二時三十分發車二時十分博多ニ着石田回漕店ニ投車中ヨリ雨降レリ　石田平吉方ニ投シ直チニ市役所ニ出ツ宿直之書記ニ面会ス市役所ハ元區役所ニシテ八間ニ五間二階ニ事務ヲ取階下ハ税務係ト収入役會計ノ詰トナル　議事所ハ橋口尋常学校内ニ設ケアリ
書記ノ案内ニテ筑陽社ヲ巡視ス製糸場ナリ本年ノ繭買入高ハ四百石ニシテ工女五十名ナリ繭一石平均廿四圓ト云　本社ノ資本ハ政府恩貸金三万五千圓ト士族ノ株金三万餘圓トナリ又博多織工場ヲ巡覧黄昏帰宿ス
夜食後市長山中立木来訪談数刻左ノ廉ヲ聞ケリ　ハルトン氏ニ下水工事ノ設計ヲ為サシム工費十萬圓ナリ未ダ實施スルニ至ラス　岩尾精ノ設立セシ日清貿易研究所ニ市費ヲ以テ生徒二名ヲ渡航セシム
東京ノ漁業研究所ヘモ市費ヲ以テ生徒二名ヲ出ス　朝鮮貿易ノ為メ市会議員一名市参事会壱名ヲ朝鮮ニ派遣ス　鉄道通セシ以来稍盛況ヲ呈ス
九時三十分市長去ル此夜高森兼太郎来ル十一時去ル
福岡市ハ博多六千戸元福岡五千戸ヲ以テ成ルト云フ
同六日晴
午前六時三十發宿福岡東公園唯森林ヲ見ルノミ又元寇紀念念碑建設（ママ）ノ標杭アリヲ経テ筥崎

八幡宮ニ參詣ス楼門ニ左ノ額アリ

醍醐帝書　敵国降伏

在
茲
日本文武憑誰力
長使蒼生仰帝猷

七時箱崎停車場ニ至ル七時廿五分發車十時十五分門司ニ着車直チニ川濠船ニ乗リ馬関ニ渡ル十分間ニシテ達ス上陸

亀山神社ニ詣ス拝殿ノ上面ニ岩巌谷修ノ書シタル五事ノ御誓文ヲ掲ク

市街散歩天王ノ宮ニ詣ス左傍ニ　安徳天皇阿弥寺ノ陵アリ復川濠船ニ乗テ門司ニ歸リ石田店に憩ス　午飯ヲ喫ス

午后三時二十五分安寧丸ニ乗船同四時十分出帆此夜船中ニ於テ濱嶋温忠ノ饗應ニ預ル

同七日晴

午前六時過廣島宇品港ニ着船人力車ヲ雇ヒ大手町三町目吉川方ニ投ス朝飯ヲ喫ス　八時より市街散歩九時前市役所ニ出頭ス該役所ハ本區役所ニシテ坪数三百五十坪余参事会席ハ二階ニ在リテ四間ニ三間半アリ役所内ニ度量衡検査所学務委員会議所草耕　所等アリ役所位地ハ県廳ノ側面ニアリ中嶋助役ノ案内ニテ本川尋常小学校ニ至ル生徒千百余名教員弐拾名器械完備生徒ノ衣服等佐賀熊本等ニ比スレハ美ナリ学校ら織物場へ至リ一時前歸宿喫飯後市街散歩三時廣嶋ヲ發シ六時半上根ニ着ス

八日晴

午前六時上根ヲ發ス霧深咫尺ヲ弁セス九時ニ至リ漸ニ太陽ヲ見ル十時霧全ク収マル十二時三次ニ着香川武八郎方ニテ午飯ヲ喫ス二時發車赤名峠ニテ夜ニ入リ七時前赤名駅松田其方ニ投ス

九日晴

午前四時赤名發頓原ニテ天明ク午后一時前宍道ニ着田中惣兵衛方ニテ喫飯午后一時乗船一時四十分出帆六時過歸宅

岡山市ノ待遇

岡山市ニ着スルヤ市書記来訪客舎ノ手配其他萬事不行届ナル旨ヲ謝シ尚各客舎へ宿料ハ三十五銭乃至五十銭ニテ賄フヘキ旨談シ置キシ旨挨拶アリ又明二十四日日(ママ)九時県会議事堂へ参集スヘキ旨挨拶其他弐三ノ書記并助役来訪ス

二十四日議事堂ニ至ル岡山市長助役参事会員等先ツ出席挨拶アリ日々議事ノ休憩間茶菓ヲ饗ス

市長ノ案内ニテ学校并工場等巡覧是日或ル店ニテ昼飯ヲ喫ス是レハ岡山市ノ饗ナリ

閉会ノ日市長并市書記等来訪アリ

懇親会ノ日ハ市長助役参事會員書記萬事周旋ヲ為ス会費ハ一人前八拾六銭五厘ナリシ又写真ヲ為ス一枚廿五銭逓送費五銭ナリシ

明治廿三年十月農商務省令第十七号　東京市ニ於テハ商業会議所條令第五条及第六条中所得税ノ等級ヲ明治廿年（三月）勅令第五号所得税法第四条ノ第四等以上トス

一　就学歩合ノ事
一　授業料督促ニ付生徒ノ就学ニ影響ハナキヤ
雑賀学校
生徒ノ椅子卓整ハス
一　講書ノ講義注意ノ事
一　生徒ヲ活潑ニスル冂ヲ務ムル事
一　女生徒ノ長途運動ハ見合セモノカ
衆議院議員撰被撰挙権者廿六年七月調
選挙有権者　七十名　被選挙有権者　六十一名
［重複末梢部分略］
織高　一日大巾壱反　其他壱反半
廿六年
七月廿日午后四時鶴岡□□製造会社ヲ訪フ鶴岡并技手等退出ノ後ナリシヲ以テ居合セシ者ニ日々製造高ヲ問フ　十磅ト答フ　一磅ニ付五圓
引懸松原絹機織場ニ至ル　組合員　十七名　機数　凡ソ二百臺　組合外ニテ七八十臺
組合ニテ機数ヲ多ク所持スル者　七十臺　松原栄之助
絹代價　二尺幅ノ分　一反ニ付八十五銭　壱尺六寸幅七十銭　壱尺三寸幅五十三銭　九寸幅四十銭
工女賃銀　二尺幅一反九銭　壱尺六寸幅　七銭　壱尺三寸幅　五銭五厘　九寸幅　四銭
廿六年産額　大凡一萬反　廿五年　七八千反
八雲絹ト東京絹ト九寸幅物ニテ目形ニ四十匁ノ差アリ即チ東京百六十目八雲百二十目
廿六年徴兵　受検者　三百九十六名　甲　乙　丙　丁
配当　歩十一　騎一　砲一　輜ニ　縫一
○
十九年県令□受ニ関スル準則第二条自家用ノ□ノ分ハ此ノ限ニアラス
○
［重複末梢部分略］
羽二重織
機　十臺　一尺八寸巾物　一尺五寸巾物
工賃　六丈ニ付四十銭　但尺八ノ分尺五ノ分ハ一銭五厘減
一日織尺　一丈余　小倉機　十二臺
拙生義母衣町九十八番屋敷ノ一　松江病院横通り
肩書ノ地ニ転居ス　松江市母衣百九十八番屋敷ノ一（松江病院横通り）
持出金　十圓四十三銭六厘　外ニ　六圓　園山借
十月三日雲天［以下十二行末梢］
午后零時四十分發同二時五十分米子着仝四時同所發九時五十分根雨着
四日雨

午前八時十五分根雨ヲ發ス午后一時二十分新庄ニ達ス昼餐午后六時勝山ニ着ス

五日曇天

午前七時勝山ヲ發ス午后二時弓削ニ着昼食三時半同所發九時岡山自由舎ニ投ス

道中ノ精算ヲ遂ク　四圓〇壱銭五厘

六日晴

午前十時関西事務所ヲ訪ヒ引懸岡山製糸場ニ至ル談偶鉄道之事ニ及タルニ或者云倉敷線私設ノ事ニ尽力セシモ利益ナキ見込ニ付止メタリト零時五十分歸着ス　県廳前　大黒屋

一十臺　機械ハ当地ニテ出来　一臺五圓五十銭　付属　杼八十銭

〇綜壱圓五六十銭　箴尺八寸弐圓八十銭

教師月八圓外ニ賄手当弐圓　旅費七圓迄　凡ソ二ケ年ノ口約

工女初6賃銭ヲ与フ

上尺八寸巾十二丈　八十五銭　日数十日ヲ要ス　中八十銭　下七十三銭　下ミ六十七銭　尺五寸巾ハ凡ソ十銭減　鯨尺

□□上一寸□依テ一寸ハ廣ク織ルナリ

十人　外三人

下拵器械　経臺弐圓五十銭　巻臺　三圓八十銭　糸操キ械　九圓

十臺ニ付二基ナリ

小枠　五百　十二圓五十銭

廿六年九月廿日高等学校巡視当日出席

四年　二組ニテ七十人　三年ノ第一　六十一人　三年ノ第二　六十八人　二年第一　五十一人　二年第二　五十七人　二年第三　四十四人　同一年第三　七十四人　同一年第二　七十二人　同一年第一七十三人　女四年　十三名　女三年　廿八人　女二年生　相持　出席廿九人　女一年　五十四人　計七百四十四人

壱圓四十四銭七厘　職員送別費

［以下五行抹消］

金十圓　惣額　内　〇弐圓　福岡負担　差引金　八圓　内　金五圓

財産割　三圓　野津　〇二圓　福岡　金三圓　月給割　二圓　野津　〇壱圓　福岡

金十圓　内　五圓　財産割　三圓　野津　弐圓　福岡　五圓　内

弐圓　福岡

西郷　小室熊太郎　布施　山口亀太郎　福井　金山幸市　崎村　渡部新太郎　美田村　竹田伊造

法例

第一條　法律ハ公布アリタル月ヨリ満二十　之ヲ遵守ス可キモノトス但法律ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二條　法律ハ既往ニ遡ル効力ヲ有セス

第三條　人ノ身分及ヒ能力ハ基本國法ニ從フ親属関係ヨリ生スル権利義務ニ付テモ亦同シ

第四條　動産不動産ハ其所在地ノ法律ニ從フ

然レトモ相續及ヒ遺贈ニ付テハ被相續人及ヒ遺贈者ノ本國法ニ從フ

第五條　外國ニ於テ為シタル合意ニ付テハ當事者ノ明示又ハ黙示ノ意思ニ從ヒテ何レノ國ノ法律ヲ適用ス可キヤヲ定ム

當事者ノ意思分明ナラサル場合ニ於テハ同國人ナルトキハ其本國法ヲ適用シ又同國人ニ非サルトキハ事實上合意ニ最大ノ関係ヲ有スル地ノ法律ヲ適用ス

第六條　外國人カ日本ニ於テ日本人ト合意ヲ為ストキハ外國人ノ能力ニ付テハ基本國法ト日本法トノ中ニテ合意ノ成立ニ最モ有益ナル法律ヲ適用ス

第七條　不當ノ利得不正損害及ヒ法律上ノ管理ハ其原因ノ生シタル地ノ法律ニ從フ

第八條　本國法ヲ適用ス可キ諸般ノ場合ニ於テ何レノ國民分限ヲモ有セサル者又ハ地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ハ其住所ノ法律ニ從フ若シ住所知レサルトキハ其居所ノ法律ニ從フ

日本人ト外國人トノ分限ヲ有スル者ハ日本法律ニ從ヒ又二個以上ノ外國々民分限ヲ有スル者ハ最後ニ之ヲ取得シタル國ノ法律ニ從フ

第九條　公正證書及ヒ私署証書ノ方式ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フ但一人又ハ同國人ナル數人ノ作ル私署証書ニ付テハ基本國法ニ從フ丁ヲ得

第十條　要式ノ合意又ハ行為ト雖モ之ヲ為ス國ノ方式に從フトキハ方式上有効トス但故意ヲ以テ日本法律ヲ脱シタルトキハ此限に在ラス

第十一條　外國ニ於テ其國ノ方式ニ依リテ作リタル證書ハ不動産物権ヲ移轉スル行為ニ係ルトキハ其不動産所在地ノ地方裁判所長又他行為ニ係ルトキハ當事者ノ住所又ハ居所ノ地方裁判所長其証書ノ適法ナルコトヲ検認シタル上ニ非サレハ日本ニ於テ其効用ヲ致サシムルコトヲ得ス

八十六錢五厘　宴会費壱人前　廿五錢　写真壱枚代　外五厘　逓送費

為明治七年戦死諸士建之　明治十八年四月佐賀有志中

〔第二冊了〕